

ナバナ（花菜・茎立菜）のカルテック栽培例

(10アール当り)

時期	方法	資材
地力作り	なるべく早い時期に（播種までに1ヶ月以上おくこと）	<p>ラクトバチルス600g … 排水よく、根の張りやすい肥沃な土を作ります 堆厩肥 1トン以上（なるべく多く） 硫安 80kg（もし通常の複合肥料なら、チッソ成分16kg程度）</p> <p>※土壌pH：6.0～6.5を目標として、もし土が酸性なら、地力作り時に 畑のカルシウムも投入して、土層全体を中和しておきます。特に根コブ病の頻発する畑では、酸性の中和も大事です。</p>
整地時	整地・ウネ作り時に全面散布、またはベッド上に散布	<p>畑のカルシウム（または カルテックCa粒状） 60kg</p> <p>※土壌pHによって、どちらかを選択してください。</p>
播種後	播種後の灌水の時に	濃縮酵素液 （500倍） … 発芽・発根・根張り促進、 根コブ軽減
前半（9～10月）	葉面散布／灌水	<p>濃縮酵素液 500倍液を葉面散布・灌水（根・生長の促進）</p> <p>※生育を強くするには、特に前半は根の力をつけることが大事です。 ※本葉3～4枚で間引きをしたら、酵素液を散布します。 ※本葉4枚頃、中耕（土寄せ）をしたら、酵素液を散布します。 ※以後、収穫開始までの間、生長促進は酵素液で根を強化して行います。 ※特に生長が弱い場合や、根コブが心配な場合は、原液3～10リットルを300倍以上に薄めて灌水施用します。（葉にかかる場合は500倍）</p> <p>生育状態によって、葉面散布で調節します。 チッソ等の肥料分補給 … メガデルトン・ネオスリー 800倍 チッソ過多の時、充実に…カルテックCa液状 500倍</p>
追肥 (10～11月以降)	早生種(10月～12月収穫)では頂花蕾の収穫開始後、晩生種(12月～4月収穫)は11月下旬、その後、収穫中は月1回(ただし状態により適宜)	<p>硫安 20kg …(生長の促進)</p>
		<p>カルテックCa粒状（または 畑のカルシウム） 20kg …(充実)</p> <p>※その時の土壌pHが酸性化していたら、畑のカルシウムを施します。 ただしカルシウムと硫安は 混ぜたまま長時間おかないで下さい。</p> <p>上記2つを同時に施用するのが効果的です。 収穫中、月1回程度の施用が標準ですが、生育状態により加減して下さい。 土壌ECは施肥後10日間ほど 0.3～0.4、その他の時は 0.2程度が適当です。</p>
収穫期の調節	収穫前7日以降～収穫中には、葉面散布(または灌水)で調節します(7～15日ごと 交互 、ないし適宜に)	<p>カルテックCa液状 500倍 … (葉を厚く、旨味を増し、品質を向上)</p> <p>※特に頂花蕾の収穫開始7日前、また側枝の収穫開始7日前が大事です。 ※収穫した菜花が軟らかく、弱く、腐りやすくなった時、花腐細菌病や軟腐病が見られる時には、Caを散布します。</p>
		<p>濃縮酵素液 500倍 … (根を強化して、生長を促進)</p> <p>※頂花蕾(主枝)の摘み採り直後に散布して、太い側枝を出させます。側枝の摘み採り後に孫枝を出させる時も同様です。その他、生長が衰弱した時に。</p>